

訓練案

災害多言語支援センターの想定される支援内容と班編成について

会議の中では、災害多言語支援センターの業務内容について、下記のとおりいくつかの案が出されてきました。訓練に際し、分担を明確にするために3つの班(仮称)を作ってみました。

センター業務案

- | | |
|---------------------------|------|
| ① 避難所の巡回 | ▲巡回班 |
| ② 多言語情報の提供(通訳・翻訳) | ■情報班 |
| ③ 情報収集および外部団体などからの問い合わせ対応 | ■情報班 |
| ④ ボランティアの受け入れ | ◎総務班 |
| ⑤ 外国人が集まる避難所の運営支援 | ▲巡回班 |

1 災害多言語支援センター設置・運営訓練案

- ① 主催：国際化協会、多文化共生会議との共催
- ② 協力：市危機管理課、国際・男女共同参画課
- ③ 目的：国際化協会と他団体が協力し合えるネットワークづくりの一環として実施する。
- ④ 場所：市役所分庁舎、本庁舎
- ⑤ 想定状況：昨日8時20分頃地震発生。(現在は7月15日(火)午前10時)

発生日時：2014年7月14日(月)8時20分

地震の強さ：マグニチュード7.9 大和市で震度6強を観測

震源地：東京都新宿区西新宿／震源の深さ：約20km

津波：15日9時頃まで、東京湾の海面上昇が約10cm程度みられたが津波の心配はない。

市の体制：震災直後、大和市災害対策本部が本庁内に設置され、危機管理課および各課において、情報収集や各種応急対策が取られてきた。

被害状況：資料5-2参照

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| ○建物全壊 3,820軒 | ○火災17.35件／1,890棟消失 |
| ○死者 *人 | ○負傷者 1,300人 |
| ○災害時要援護者(要介護3以上) 2,020人 | |
| ○避難者 55,590人 | ○帰宅困難者 13,610人 |
| ○停電 32,630軒 | ○上水道断水 9,470世帯 |

通信回線： 一般の電話回線は発災後20分程度はつながったが、その後は、つながりにくい状態。携帯電話はほとんど発災直後つながらなかったが、現在は一部復旧。発災後約30分後から市内全域で「災害伝言ダイヤル」の運用が開始となっている。防災行政無線等は発生直後から正常に機能。

電気： 発災後、市内広範囲で停電が生じたが、現在は一部復旧、計画停電が予定されている。

ガス、水道、下水道： ガスは一部復旧。一部断水状態が続いている。現在状況を調査中。

鉄道： 全線不通。市内各駅でも帰宅困難者があふれ、混乱状態が続いている。昨日の発災後から生涯学習センターでは帰宅困難者の受け入れを行っている。

⑥ 協会状況： 国際化協会のある市役所分庁舎の建物は、1階ピロティ部分の一部天井がおちてきて、建物全体がきしみ非常に危険な状態。庁舎の壁にはひびが入り、窓ガラスも一部が割れている。正面入り口ドアのガラスも割れ、開けづらくなっている。部屋の中は、固定していない本棚などが崩れ、大混乱。倒れてきたキャビネットや本棚に挟まれ、職員5名のうち2名が足や頭などに軽傷を負った。

15日(火)午前9時、市と国際化協会とにより、災害多言語支援センターが立ち上がり、比較的被害の少なかった本庁会議室棟1階の会議室に事務局を設置。パソコンやファックスなどの機材が少しずつ運び込まれてくるかわら、支援センター協力ボランティアが集まり始め、各作業班の活動が本格的に始まるようになっている状況。

⑦ 訓練内容： 災害対策本部から送られてきた情報を選別、分類し、できるだけ簡単なわかりやすい原稿(翻訳原稿としても使えるもの)を作成する。

2 地域防災訓練案(避難所体験)

主催: 市内自治会

協力: 市危機管理課、国際・男女共同参画課、国際化協会

目的: 国際化協会と他団体が協力し合えるネットワークづくりの一環として実施する。また外国人市民を巻き込んだ防災訓練を行い、防災知識の普及、啓発を行う。

実施: 自治会の防災訓練に参加する形での実施。自治会とのすり合わせは、国際化協会が市危機管理課と連携して行い、多文化共生会議委員に当日参加いただく。また、国際化協会より外国人団体、外国人支援団体などに、当日の参加を依頼する。

場所: 災害時に避難所を開設する場所(市内小中学校体育館など)

内容: 国際化協会の呼びかけで集まる外部団体、多文化共生会議委員には、訓練の内容に応じて、ロールプレイを担っていただく。例:①避難者、②翻訳ボランティア、③巡回ボランティアなど。

①避難所巡回を行い、外国人避難者のサポートを行う。▲巡回班

(避難者カードの記入の手伝い、ニーズおよび状況の把握、情報提供)

②本部から送られてきたとする情報を整理し、優先して翻訳するものを選び、処理する。

■情報班

③②で作成されたものを避難所内に掲示する。▲巡回班

④避難所運営委員会(総務班、名簿班、食糧班、物資班、救護班、衛生班、情報広報班)の訓練としては、各活動班の役割にそった訓練を実施(できるものだけでも)

— 名簿班の訓練は強く要望する。自治会

役割: 避難所スタッフ、災害多言語支援センタースタッフ、市災害対策本部、避難者

大和市地域防災計画

第2編 地震災害対策計画編 第1章 災害予防対策計画

第18節 災害時要援護者対策の第3項の3には、次のようにある。

3 外国人に対する防災対策
 (3)外国人を含めた「災害多言語支援センター」の設置・運営訓練
 災害時に市内に在住する外国人に情報提供および相談対応等を行う
 「災害多言語支援センター」を設置・運営するための訓練を実施する。